

函館山の麓、西部地区からまちづくりを考える

はこまち通信 クーポラ



2020.7

vol. **53**

新たな視点でまちづくりに取り組む

Mission 1

NPO・市民活動団体の支援

(詳細は次ページ)



Photo)5/26対談より

丸藤センター長・NPO法人はこだて街なかプロジェクト理事長 山内 一男さん・大矢センター長代理

Contents

特集 **新たな視点でまちづくりに取り組む** ...P2

市民活動団体のご紹介

一般社団法人 **ワールズ・ミート・ジャパン** ...P4

INFO & TOPICS / 配布先・問い合わせ先 ...P5

センター長 丸藤の『**今伝えたいこと**』 ...P6



- まちづくりセンターで行われている講座案内や市民活動団体などの詳細は、ブログやホームページで公開中です。
- まちづくり、市民活動、各種助成金、移住・定住に関する問い合わせなど、お気軽にご相談ください。



Mission 1 NPO・市民活動団体の支援

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により函館及び道南のNPO・市民活動団体の活動や事業が大きな影響を受けています。地域の課題を解決するため、函館市地域交流まちづくりセンター(以下まちセン)は『5つのミッション(右イメージ図)』を掲げて活動してきました。

感染症の終息が見えず、さまざまな制約が生じるなかこれからはどのような視点でまちづくりに取り組むべきか。そこで今回は、『NPO法人はこだて街なかプロジェクト』理事長の山内 一男さんをゲストに、ミッションのひとつ『市民活動団体の支援』に焦点を当てながら、今後について、丸藤センター長、大矢センター長代理がお話をお聞きました(2020.5.26)。



——山内さんのNPOの活動はどうされていますか。

■山内さん

NPOや市民活動団体にはそれぞれ『活動の目的』があり、『活動を継続』することで『社会的責任』を担っていますから、『活動を止める』『活動が止まる』という今の状況はハンディが大きすぎるよね。仲間と集まって打合せしたいけどできない。調べごとがあっても図書館が閉まっている(取材当時)。私のNPOも研修会を予定していましたが、東京や札幌から講師を招くことができなくなりました。



仲間とは電話やメール、Webツールにも挑戦しながら、活動が再開できることになった時のための準備は続けているのですが、お互いの熱量が伝わらずもどかしい。やはり『仲間と集まって、直接会って話す』のとは大違いですね。

■丸藤

確かに『情報の共有』だったり『進捗



の確認』ということなら電話やメール等でもできますよね。一方で、NPOや市民活動団体の活動に必要な『新しいものをつくりあげる』ということであれば、『集まることができない今の状況』は、とてもやりづらいですよね。

——今後はどのような支援が必要となるでしょうか

■山内さん

臨時休館から再開したまちセンも、これまでとは違った対応が求められるでしょう。団体からの『資金相談』や『クラウドファンディング』といった相談に、スタッフがどこまで対応できるか。相談業務は、何よりスピーディーな対応が一番です。まずはすぐ回答してあげて「あれ?別の解決法もあるぞ」となったら、また連絡してあげれば、団体のみなさんも安心できると思います。

■丸藤

はい、団体からの相談業務において、まちセンスタッフのさらなるスキルアップは欠かせません。そのためには何より、北海道内の『中間支

援組織』と情報を共有しながら『協働で支援する』ことが必要と考えます。『新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書の提出』(次ページ参照)もそのひとつです。私も、これまで札幌で実施していた『中間支援組織』の会議を『Web会議』に移行して、連絡を取っています(P6参照)。

■山内さん

まちセンには、『NPOの活動が止まる』というこの現状が『社会にとってマイナスである』ということも、世間に広く知ってもらわねばならないです。

■大矢

函館近郊の団体が、具体的にどんな状況で、どんな支援を求めているのかを知るために、『緊急アンケート』を実施しました(次ページ参照)。寄せられた声に応えていくことと同時に、世間にも広く発信していきます。



■課題解決に向けての新たな視点

- 道内の中間支援組織と連携し、協働で支援する
- スピーディーな相談対応、さらなるスキルアップ
- この現状を世間に知ってもらう発信力を高める
- 3密を避けるなどの『新たな日常』を取り入れながら団体の活動を支援する(例:Webツールの活用)



今回のゲスト

山内 一男さん

函館市出身。建築企画山内事務所 代表
NPO法人はこだて街なかプロジェクト 理事長
NPO法人NPOサポートはこだて 理事長

■北海道NPOサポートセンターによる無料相談

- ▶対象 コロナウイルス感染症防止対策によって団体運営に影響が出ている道内の非営利団体、NPO法人、任意団体、一般社団法人(非営利型)、一般財団法人(非営利型) など



詳細はこちら▶

■新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の救済措置の要望書を提出しました

- 主な内容／事業者等に対する各種支援や補助をNPOに対しても同様に実施を
- 提出先／北海道道民課を通し鈴木北海道知事および関係各部署
- 提出日／第1回：4月27日 第2回：6月4日
- 提出団体／道内の中間支援組織(7団体)の連名

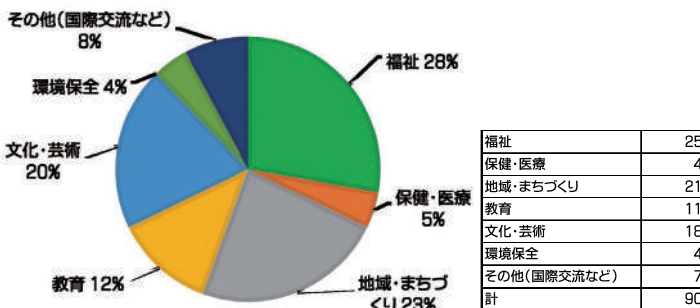


第1回提出の詳細はこちら▶

緊急アンケートの結果報告(一部)

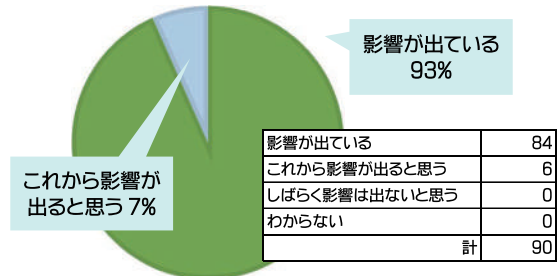
新型コロナウイルス感染症拡大に関するNPO・市民活動団体等への緊急アンケート回答結果(函館及び近郊) 調査・集計/NPO法人NPOサポートはこだて(2020年5月15日~31日 90団体) 210団体中90団体から回答が寄せられました。

【団体者の主な活動分野について】 Q1.団体の活動分野



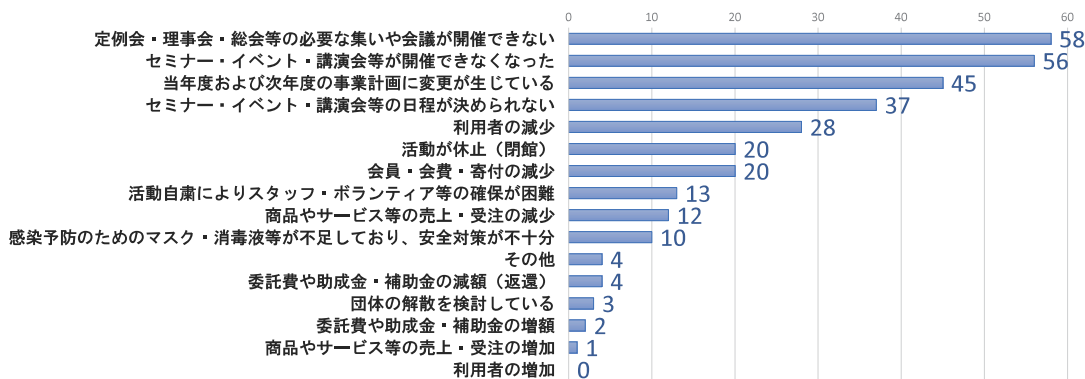
【団体への影響について】

Q2.新型コロナウイルス感染拡大により、団体の活動や運営に影響が生じていますか？



【Q2で影響がある・これから影響が出ると答えた方へ 具体的な影響とは】

Q3.具体的にどのような影響でしょうか？(90団体の回答数 複数回答可)



▶ 企業同様、NPO等も経済的に大きな影響を受けており、また活動や団体の存続においても危機的影響が出てきています。

全結果はこちら▶



市民活動団体のご紹介

協賛・ボランティア募集中!
共に活動してみたい方は
気軽に各団体に
お問い合わせください。

～ 元町公園で『世界』に出会う ～ 一般社団法人 ワールズ・ミート・ジャパン

『はこだて国際民俗芸術祭』では、世界のアーティストが1週間あまりにわたって函館に滞在し、伝統的建造物が建ち並ぶ「元町公園ステージ」を中心に、公演や体験型ワークショップなど様々なイベントを行います。これまで累計2,200人以上の海外アーティストを函館に招へいし、過去360,000人以上を動員する、民俗芸術の分野では国内最大級を誇る夏の大型野外フェスティバルです。

今年も『第013回芸術祭』の準備をすすめておりましたが、通常のカンパが困難であると判断しました。しかしながら異なる内容で準備を進めており、開催にはボランティア・協賛など、多くの方々の力が必要です。芸術祭スタッフの合言葉は『人生を変える経験』。ともに暑い夏を過ごして、心が通じ合う仲間を見つけませんか?詳しくはHPをご覧ください。



2019 第012回ははこだて国際民俗芸術祭 (元町公園にて) 提供/グレートーン

- 一般社団法人 ワールズ・ミート・ジャパン
- 代表理事(フェスティバルディレクター) イアン・フランク
- 代表理事(芸術監督) ソガ直人
- 【設立】2007年 【協賛】随時募集(詳細はHP)
- 【住所】〒040-0053 函館市末広町9-9
- 【電話】0138-27-7081
- 【Mail】wmdf@wmdf.org
- 【HP】<http://wmdf.org/>



団体設立のきっかけや活動内容などの詳細はまちセンHPで
<http://hakomachi.com>



クーポラ
便り

まちづくりセンターにお越しのみなさまへ

3つのお願い

感染症予防対策へのご理解、ご協力をお願いします。



- アルコール消毒
- ソーシャルディスタンス
- 咳エチケット



NPOまつり中止のお知らせ

2020年7月に予定しておりました第16回NPOまつりは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりました。

参加団体のみなさま、イベントを楽しみにされていたみなさまには心よりお詫び申し上げます。



詳細はまちセンHPで▲

臨時休館について



3月より幾度も臨時休館となり、みなさまにはたいへんご不便をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

『はこまち通信クーパー』の【クーパー】とは？

教会などの屋根上部に取り付けられた、半球系の構造物を指します。

1923年に建てられた旧丸井今井呉服店函館支店をリノベーションし、2007年にオープンした函館市地域交流まちづくりセンター。その外観を印象づける『クーパー』を広報誌でも使用しております。



配布先・問い合わせ先

『はこまち通信クーパー』2020年7月 vol.53
次号は9月30日発行予定です（年4回）

発行／函館市地域交流まちづくりセンター
住所／〒040-0053 北海道函館市末広町4-19
TEL／0138-22-9700
FAX／0138-22-9800
開館／9:00～21:00
休館日／12月30日～1月3日

<http://hakomachi.com>



このほか器材点検のため月1回程度、臨時休館する場合があります。詳しくはセンター内やWebでお知らせしています。

建物裏手に駐車場あり。
2時間まで無料。

指定管理者／
NPOサポートはこだてグループ
(2007年4月～)



『はこまち通信クーパー』編集室だより

今号より新たな特集企画がスタートしました。これからも函館や道南のまちづくりをする市民活動団体のみなさまの活動を支援できるよう、ニーズの掘り起こし、情報収集・発信をしていきます。

(編集長／谷口 真貴)

●主な配布先(敬称略)

函館市役所1F／亀田支所／湯川支所／銭亀沢支所／戸井支所／恵山支所／椴法華支所／南茅部支所／函館市中央図書館／渡島総合振興局／函館市企業局アクロス十字街／総合保健センター／函館市民会館／函館アリーナ／函館市女性センター／函館市青年センター／函館市公民館／函館コミュニティプラザGスクエア／函館市青少年研修センターふるる函館／中島れんばいふれあいセンター／函館市総合福祉センターあいよる21／函館市勤労者総合福祉センターサン・リフレ函館／亀田交流プラザ／どさんこ交流テラス(東京 有楽町)

取材に協力くださったみなさま、施設等

『はこまち通信クーパー』に関するご意見、ご感想をお寄せください。お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、メール info@hakomachi.com まで





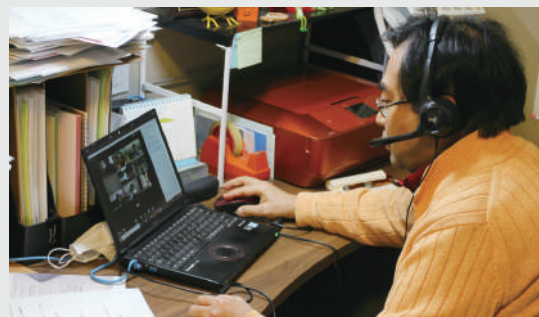
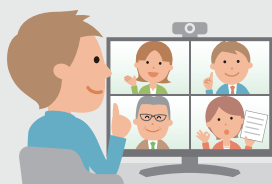
センター長 丸藤の「今伝えたいこと」

新型コロナウイルスのためまちづくりセンターでも休館が続き、私も在宅勤務が多くなりました。年間数十回の出張をしていた身にとって、家に居る時間が多いというのは不思議な感覚です。

講演会や研修会などの講師としての活動はほとんどなくなってしまいましたが、実は、道内の支援センター（まちづくりセンターのように、市民活動の拠点となっている場）等、各地域の方との交流はむしろ増えています。今までは距離的な問題もあり年に数回しか集まることができなかったのですが、ZoomやSkypeの活用、Facebookやメッセージャーでの情報共有などを進めることで、道内各地域で活動している皆さんとやり取りをし、新型コロナウイルス対策についても議論を重ねています。

WEB会議の利点は、距離を超えた参加のしやすさです。会議をしながら資料も同時に画面上で見ることができ、チャットを並行させることでより深い確認もできます。一方、操作

はもちろん、意思表示や意見の出し方、思いの強さを共有し議論を深め決めていくには慣れやコツが必要です。



今後、コロナも含めた新感染症や自然災害、温暖化、国家間の紛争やテロ、経済の悪化など様々な危機を乗り越えていかななくてはなりません。そのためには、様々な立場の人が連帯し各自ができることを着実にこなしていくことが必要になります。WEB会議等で身につけた上手な議論のコツを活用し、質を高め、未来のために活かしていくことが求められてくると思います。

最後に、NPO・市民活動団体のみなさんに『さわやか福祉財団 地域助け合い基金』のお知らせです。

コロナ禍に対応した助成金の募集がはじまりました。私は同福祉財団北海道ブロックのリーダーを務めており、函館市生活支援コーディネーター（1層）としても活動しています。応募をお考えのみなさん、まずは丸藤までご相談ください。地域助け合い基金の詳細はまちセンブログをご覧ください。



詳細はこちら▶

1F 喫茶コーナー cafe DripDrop

- 営業時間／10:00～16:00（変更の場合あり）
- 定休日／水曜日・施設休館日
- 自家焙煎、ハンドドリップのコーヒーで一息つきませんか？

👉【オススメ】アイスコーヒー 450円
★つくりおきせず一杯ずついれるアイスコーヒーです



営業時間など最新情報はお店のSNSをご覧ください▶

1F 福祉の店 どんぐり 2号店

- 営業時間／10:00～16:00 ●定休日／土日祝日・施設休館日
- 授産製品を扱っています。函館みやげにオススメのクッキーをはじめ、布バッグや布ぞうり、手作りマスク、手作りせっけんなどのハンドメイド雑貨も豊富です。

👉【オススメ】土偶クッキー 800円（2枚×6袋入 税込）
★北海道産小麦を使用 サックリとした食感です

【喫茶・ショップお問合せ先】
電話0138-22-9700 函館市地域交流まちづくりセンター

